

2025年8月8日

Osaka Metro Group

2025年度（2026年3月期）第1四半期決算

1. 2025年度第1四半期 連結損益計算書（総括）

第1四半期の営業収益は、万博開催に伴う鉄道・バスの乗車人員の増加、都市開発事業の不動産販売による増加により、169億円の増加。

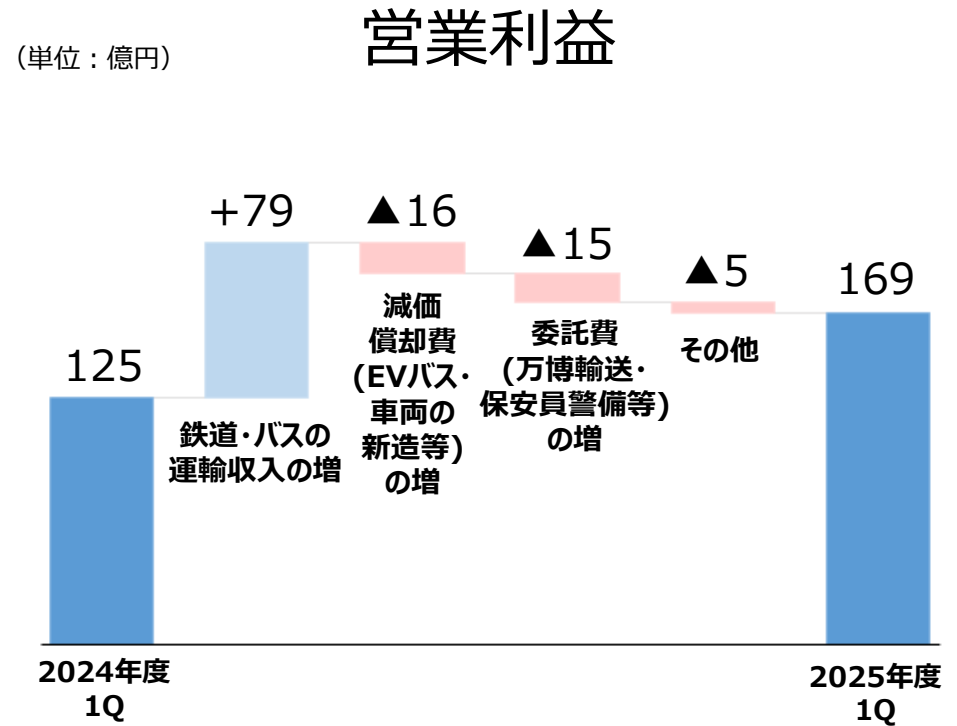
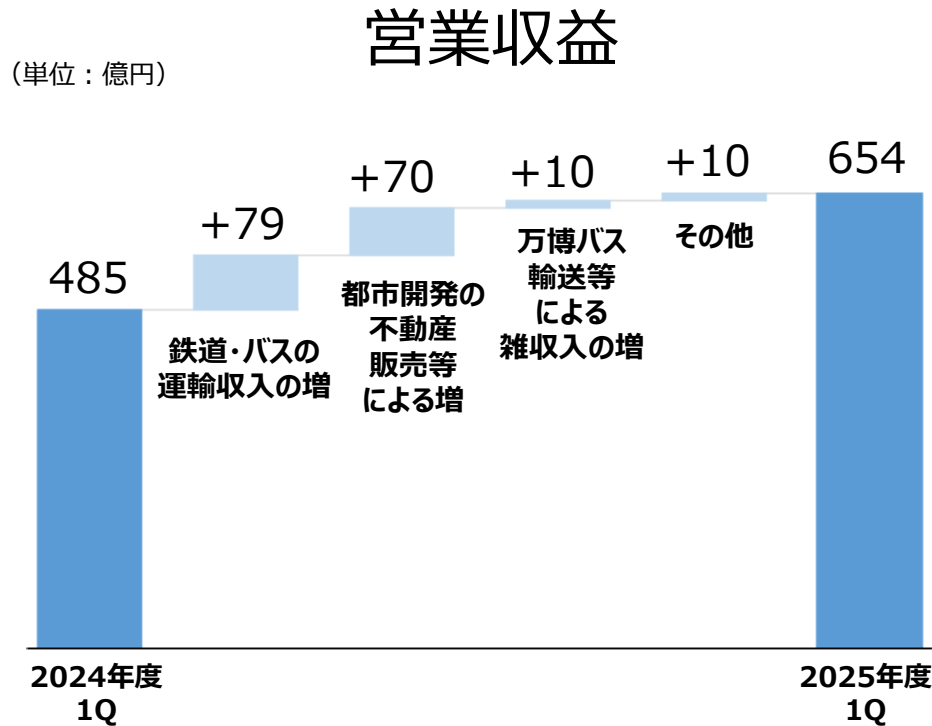
営業利益は、EVバス及び車両の新造等による減価償却費の増加などがあったものの、営業収益の増加により、44億円の増益。

（単位：億円）

	2025年度 1Q	2024年度 1Q	増減
営業収益	654	485	+169 (+34.9%)
営業費用	485	359	+125 (+34.9%)
営業利益	169	125	+44 (+34.8%)
営業外損益	▲2	3	▲4
経常利益	167	128	+39 (+30.7%)
特別利益	7	4	+3
特別損失	6	2	+4
法人税等	52	40	+12 (+30.8%)
親会社株主に帰属する 四半期当期純利益	113	88	+25 (+27.8%)

2. 2025年度第1四半期 営業収益・営業利益の増減要因

営業収益は、鉄道・バスの運輸収入および都市開発事業の不動産販売収入の増加等により増収。
営業利益は、減価償却費や委託費の増加等があったものの、営業収益の増加により増益。



3. 2025年度第1四半期 セグメント別の状況（総括）

鉄道・バスの運輸収入が増加した交通事業をはじめ、都市開発・広告事業は、増収増益を達成。マーケティング・生活支援サービス事業は、地下街や駅ソトの直営店舗の収益貢献等により増収となったものの、万博パビリオンに係る費用の発生等により、増収減益。

（単位：億円）

	2025年度 1Q		2024年度 1Q		増減	
	営業収益	営業利益	営業収益	営業利益	営業収益	営業利益
合計	654	169	485	125	+169 (+34.9%)	+44 (+34.8%)
交通事業	543	148	449	117	+94 (+21.0%)	+31 (+26.6%)
鉄道事業	508	140	420	116	+88 (+20.9%)	+24 (+20.9%)
バス事業	51	8	35	1	+17 (+47.9%)	+7 (+924.0%)
セグメント内取引消去	▲16	(-)	▲6	(-)	▲10 (-)	(-) (-)
マーケティング・ 生活支援サービス事業	33	2	29	3	+4 (+13.0%)	▲1 (▲41.9%)
都市開発事業	79	17	10	4	+70 (+719.3%)	+13 (+360.1%)
広告事業	14	3	9	1	+5 (+48.6%)	+1 (+76.1%)
その他	▲15	▲0	▲12	0	▲3 (-)	▲0 (-)

※「その他」には、グループ内受託事業およびセグメント間内部取引消去を含みます

4-(1). 交通事業の状況

営業収益は、大阪・関西万博への来場者輸送などに伴う鉄道・バスの乗車人員の増加により、94億円の増収。

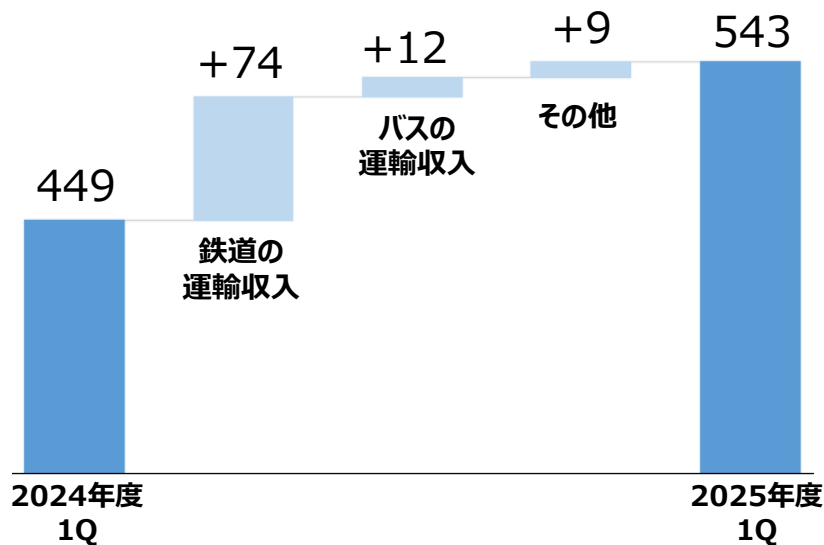
営業利益は、万博関連対応に伴う委託費・人件費の増加、車両新造・更新等の投資に伴う減価償却費の増加があったものの、運輸収入の増加により31億円の増益。

(単位：億円)

	2025年度 1Q	2024年度 1Q	増減
営業収益	543	449	+94 (+21.0%)
営業利益	148	117	+31 (+26.6%)

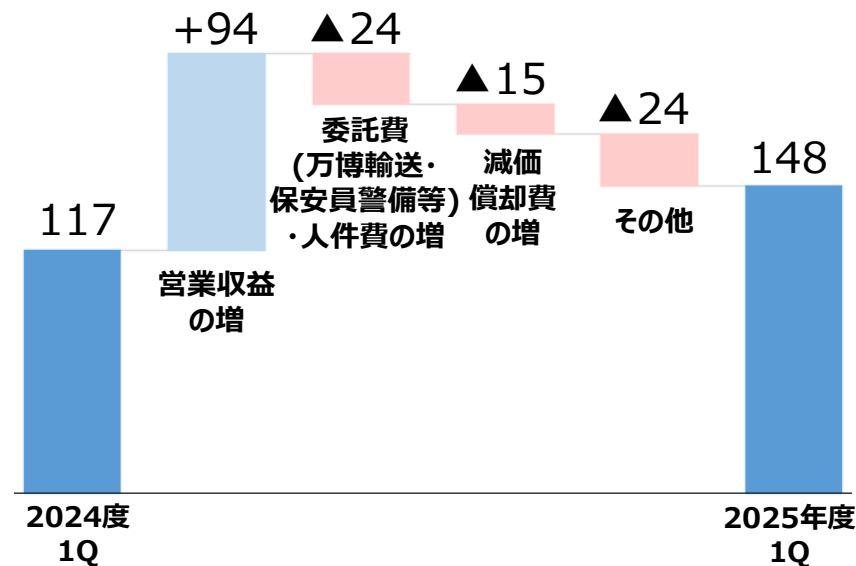
(単位：億円)

営業収益



(単位：億円)

営業利益

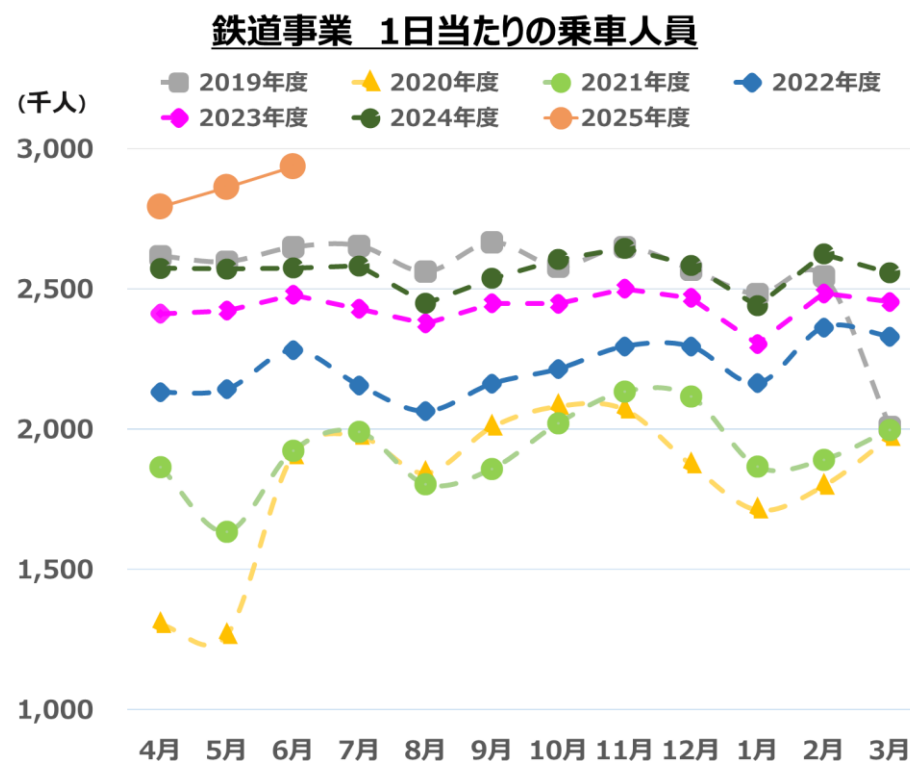


4-(1). 交通事業（鉄道）の乗車人員と運輸収入

乗車人員は、前年同期から26百万人（+11.3%）増加。
運輸収入は、乗車人員の増加に伴い、74億円（+18.6%）増加。

（単位：千人、億円）

		2025年度 1Q	2024年度 1Q	増減
乗車 人員	合計	260,594	234,200	+26,395 (+11.3%)
	定期	123,527	118,467	+5,060 (+4.3%)
	定期券	89,944	84,090	+5,854 (+7.0%)
	マイスタイル	33,583	34,377	▲794 (▲2.3%)
	定期外	137,067	115,733	+21,334 (+18.4%)
運輸 収入	合計	471	397	+74 (+18.6%)
	定期	170	162	+8 (+4.8%)
	定期券	112	104	+9 (+8.3%)
	マイスタイル	58	59	▲1 (▲1.5%)
	定期外	301	235	+66 (+28.1%)



4-(1). 万博への貢献を意識した交通事業の主な取り組み

大阪・関西万博のメインアクセスとしての使命を果たすべく、駅の大規模リニューアル等の安全・安心の取り組みに加え、鉄道の輸送力の増強、会場内外でのバス運行等を推進。
また、万博会場にて大阪ヘルスケアパビリオンでの出展を実施。

安全・安心の取り組み

＜地下空間の大規模改革＞

中央線 本町駅ほか合計 7 駅の
グランドリニューアル工事を完了。
最後の中央線 谷町四丁目駅は
2025年夏頃に完成予定。



＜中央線 安全対策＞

中央線において子ども専用及び優先列車を運行。
また、夢洲駅・本町駅・弁天町駅における警備の強化や
万博期間中列車内に保安員を配置するなど安全体制を強化。

鉄道の輸送力増強の取り組み

＜新型車両＞

中央線新型車両（400系）を
1 列車追加で導入。これにより
23列車全ての導入を完了。



＜中央線運行本数の増強＞

万博会場へのメインアクセスルートとして、
中央線で 2 分 30 秒間隔の運行を 1 日 12 時間実施。

万博会場での取り組み

＜大阪ヘルスケアパビリオンの出展＞

「便利な交通により大きく変化した
未来の大阪の街」を映し出す
スタンディング形式の没入シアター
「ニューモビリティ・ニューライフ」を出展。



〈没入シアター内側〉※イメージ図

会場内外でのバス輸送の取り組み

＜EVバス・自動運転バス＞

EVバスを活用した「e Mover」を運行。
一部は自動運転レベル 4 相当での
運行や走行中給電を実施。
また、舞洲駐車場から万博会場への
シャトルバスを運行。（一部区間を自動運転レベル 4 で運行）



4-(1). それ以外の交通事業（鉄道、バス）の主な取り組み

大阪・関西万博に向けた直接的な取り組みに加え、安全・安心の取り組み・増収に向けた取り組みも着実に推進。また、空飛ぶクルマの離着陸場「大阪港バーティポート」にて空飛ぶクルマの認知・理解の向上を目的として搭乗体験等のイベントを実施。

安全・安心の取り組み

<可動式ホーム柵の設置>

鉄道駅バリアフリー料金を活用して、中崎町駅ほか合計4駅で供用開始。
(2025年度末までに全134駅設置完了に向け整備中。)



<エレベーターの増設>

バリアフリー経路の複線化として千日前線 日本橋駅にエレベーターを増設。2025年度内の供用開始に向け、東三国駅ほか合計6駅を整備中。



<セキュリティ対策>

中央線新型車両1列車に防犯カメラを設置。
(中央線全列車設置完了。)



増収に向けた取り組み

<沿線情報の発信、タイアップ企画の実施>

沿線情報誌「Metrono」の発行など、国内や海外インバウンドへ沿線情報の発信を強化。人気ゲームなどとタイアップし、沿線を回遊して楽しんでいただくデジタルスタンプラリーを実施。

<沿線情報サイト「バスさんぽ」の開設>

バスでのお出かけを促進するために、沿線の魅力的なスポット情報を発信するサイト「バスさんぽ」を4月1日に開設。

空飛ぶクルマ

空飛ぶクルマの認知・理解の向上を目的として「空クルマボ」を開設。4月26日より空飛ぶクルマの離着陸場「大阪港バーティポート」にて空飛ぶクルマ「SD-03」の搭乗体験、VR試乗体験等のイベントを予約制にて実施。



4-(2). マーケティング・生活支援サービス事業の状況と主な取組み

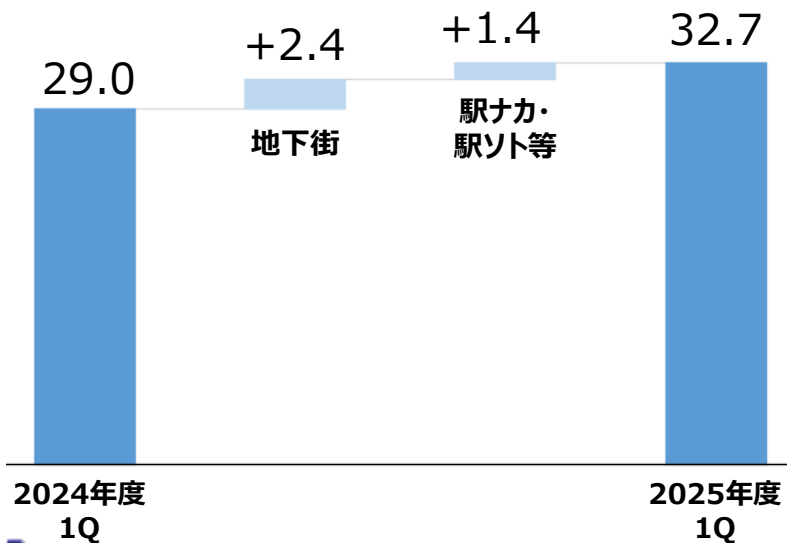
地下街の賃貸料収入の増加や駅ナカ直営店舗の新規開業等により増収となったものの、大阪・関西万博や地下街のリニューアルに伴う費用が発生したことなどにより、減益。

(単位：億円)

	2025年度 1Q	2024年度 1Q	増減
営業収益	32.7	29.0	+3.8 (+13.0%)
営業利益	2.0	3.5	▲1.5 (▲41.9%)

(単位：億円)

営業収益



地下街

<コムズガーデンリニューアル>

地上の京橋公園再整備と一体的に、2025年4月18日「コムズガーデン」をリニューアルオープン。



駅ナカ

<直営店舗新規オープン>

直営ポップアップ型販売店舗「Metro Opus」の11号店「Metro Opus 西梅田店」が2025年4月にオープン。



4-(3). 都市開発事業の状況と主な取組み

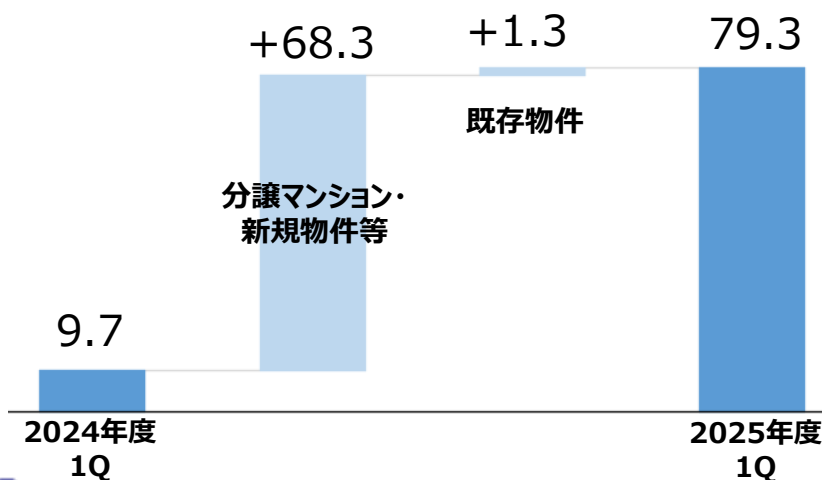
メトライズ森ノ宮中央等の新築分譲マンションの引渡しや
前年度に取得したオフィスビル・賃貸マンションによる賃料収入の増加等により、増収増益。
「交通の価値向上に資する都市開発」を前提とし、大阪の都市魅力度向上に直結する開発を推進。

(単位：億円)

	2025年度 1Q	2024年度 1Q	増減
営業収益	79.3	9.7	+69.6 (+719.3%)
営業利益	16.5	3.6	+12.9 (+360.1%)

営業収益

(単位：億円)



分譲マンション

<メトライズ森ノ宮中央>

Osaka Metroの新築分譲マンション
ブランド「METRISE(メトライズ)」
シリーズ第2弾。
中央線・長堀鶴見緑地線
森ノ宮駅徒歩5分、
地上15階・総戸数98戸。
2025年7月に全戸引渡し完了。



4-(4). 広告事業の状況と主な取組み

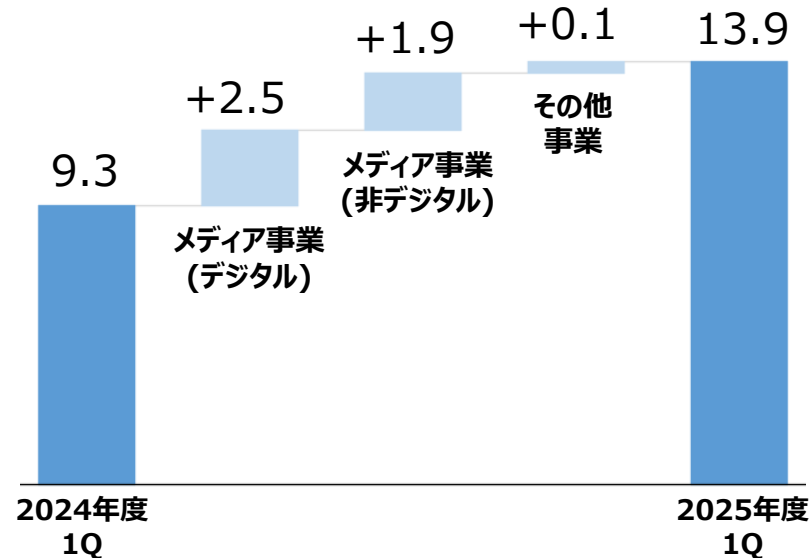
大阪・関西万博へ向けた主要商品の販売による貢献等により、増収増益。
「Osaka JOINER」において、インバウンド向けサービスを拡大展開し、更なる需要獲得を推進。

(単位：億円)

	2025年度 1Q	2024年度 1Q	増減
営業収益	13.9	9.3	+4.5 (+48.6%)
営業利益	2.6	1.5	+1.1 (+76.1%)

(単位：億円)

営業収益



メディア事業

万博特別商品等の掲出開始により
収益化を達成。

＜夢洲ドリームゲートシート（夢洲駅）＞
長さ約65m、幅約19m、
地上高約9.7mの大型シート広告



新規事業

ローカルガイドツアーサービス「Osaka JOINER」において、欧米豪旅行者に人気の『当日申し込めるローカルイマーシブ』体験の提供を推進。
欧米豪をターゲットとするマーケティング、コンテンツ造成、旅ナカプロモーションなどのコンサルティング業務についても複数受注。



5. 連結貸借対照表、連結キャッシュ・フロー計算書

連結貸借対照表 : 投資は、駅グランドリニューアル等のサービス投資、可動式ホーム柵の設置等の安全投資を中心に105億円実施。

連結キャッシュ・フロー計算書 : 営業CFは、税引前純利益の増加等により増加。投資CFは、上記設備投資等に加え、3月計上の投資の支払により、148億円の支出増。フリーCFは、221億円のマイナス。

(単位：億円)

	2025年度 1Q末	2024年度末	増減	主な増減要因
資産	10,382	10,495	▲113	
流動資産	449	562	▲113	現金及び預金 ▲63
固定資産	9,933	9,934	▲1	投資 +105 減価償却費 ▲133
負債	4,348	4,501	▲153	
流動負債	2,090	2,246	▲156	コマーシャルペーパー +230 未払金 ▲438
固定負債	2,258	2,255	+3	
純資産	6,034	5,995	+39	
現金及び 現金同等物	176	240	▲63	
有利子負債	3,701	3,471	+230	コマーシャルペーパー +230
ネット有利子負債	3,525	3,232	+293	
自己資本	5,960	5,924	+37	

(単位：億円)

	2025年度 1Q	2024年度 1Q	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	221	94	+128
投資活動による キャッシュ・フロー	▲443	▲295	▲148
(フリーキャッシュ・フロー)	▲221	▲201	▲21
財務活動による キャッシュ・フロー	158	176	▲18
現金及び現金 同等物の増減額	▲63	▲25	▲38
現金及び現金 同等物の期末残高	176	196	▲19



**Osaka Metro
Group**